

朮に関して

朮 キク科多年草 オケラ(*Atractylodes japonica*)及びその同属植物の根茎のこと、

日本在来のオケラ [和白朮] (*Atractylodes japonica*)

江戸時代に中国から佐渡に導入されたオケラ [佐渡蒼朮・南蒼朮] (*Atractylodes lancea*)

中国産のオオバナオケラ [白朮・唐白朮] (*Atractylodes ovata* or *A macrocephala*)

中国産のシナオケラ [蒼朮・西北蒼朮] (*Atractylodes chinensis*)

日本ではかつてオケラの根茎皮を削った白いものを白朮とし、根茎皮のついたものを蒼朮としていた。

中国で白朮と蒼朮を区別して薬用処方に組み込まれるようになったのは6世紀ころとされています。傷寒論や金匱要略・神農本草経が著された3世紀～5世紀ころには白朮・蒼朮は区別されていなかったと言われています。

成分：

日本薬局方ではアトラクチロンを主成分としアトラクチロジンを含まないものを白朮、アトラクチロジンを多く含みアトラクチロンが少ないものを蒼朮と規定しています。

蒼朮にはヒネソールやβ-オイデスマールが含まれ白い綿状に析出します。

効能：

白朮は健脾・補気・利水消腫・止瀉、

○体力の衰弱による倦怠感があるとき、滋養作用があり人参湯・茯苓飲・参苓白朮散・四君子湯・補中益気湯・五苓散・苓桂朮甘湯・・・

蒼朮は健脾・芳香化湿・祛風湿＝止痛など

○健脾では消化不良を目標に平胃散・胃苓湯など、痛みには二朮湯・疎経活血湯・五積散・・・

